

付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ情報

平成26年10月12～21日に陸奥湾6定点で付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。※4～9月は久栗坂・川内のみ

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1のとおりで、青森市奥内沖で15.0個/トン、久栗坂沖で6.7個/トンでしたが、蟹田沖、小湊沖、野辺地沖、川内沖では見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2のとおりで、青森市奥内沖で1.7個/トン、川内沖で3.9個/トンでしたが、蟹田沖、久栗坂沖、小湊沖、野辺地沖では見られませんでした。

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ザラボヤ、ネンエキボヤは見られませんでした。(キヌマトイガイラーバは年明け以降まで出現しないと思われます)

2 水温の状況

各ブイの10月28日の平均水温は、表2のとおりです。

表1 ラーバ等の出現状況

単位:個/トン						
調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
蟹田沖	H26.10.20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H26.10.21	15.0	0.0	0.0	1.7	0.0
久栗坂沖	H26.10.20	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
小湊沖	H26.10.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	H26.10.12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H26.10.15	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバは、西湾の一部で昨年より多く見られています※。現在養殖施設に付着しているユウレイボヤも成熟して来ていますので、今後の水温の推移にもよりますが、西湾を中心に11月中旬頃までラーバの発生と付着が続くものと思われます。(※過去の調査結果では平成18,19年の同時期に20個/トン以上のラーバが見られています。)

また、オベリア類のクラゲが奥内沖と川内沖で見られるようになりましたが、現在付着しているオベリアは室内試験では数cmと小さいうちに成熟してクラゲを出しており、春先に付着被害を及ぼす種ではないと推定されます。今後、冬にかけて出現するオベリアクラゲの状況に注意して行く必要があります。

ネンエキボヤはラーバ調査では見られませんが、室内試験の結果から20℃以下でラーバが発生し短時間で付着することがわかっていますので、8月中旬頃から付着していたネンエキボヤは10月中旬頃からラーバが発生・付着(今は1mm程度で見つけにくい状態)しているものと思われます。

今後のラーバ等の出現動向については、次回(11月中旬発行予定)の情報を参考にしてください。

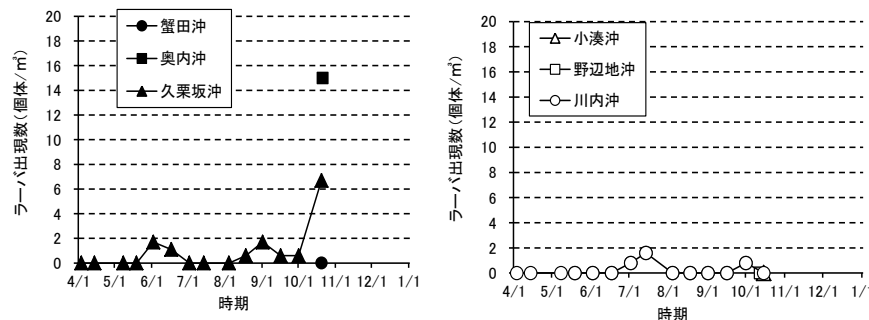


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

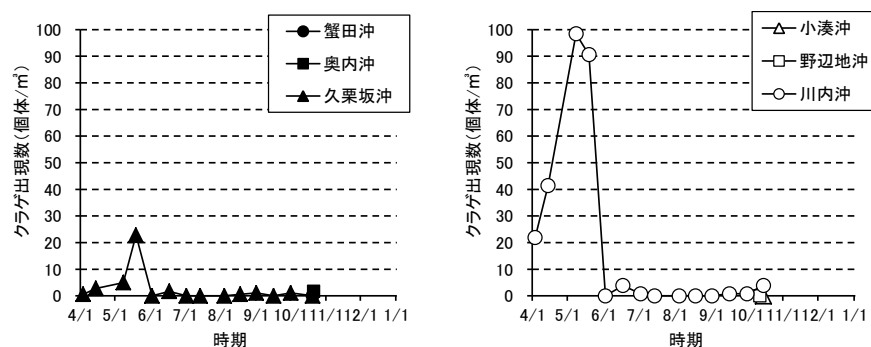


図2 オベリア類(通称クサ)のクラゲ出現数の推移

表2 各ブイの中層における日平均水温(10/28)

観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)
平館ブイ	17.3	東田沢ブイ		横浜ブイ	
蓬田ブイ		清水川ブイ		浜奥内ブイ	17.3
奥内ブイ		野辺地ブイ	17.5	川内ブイ	
青森ブイ	17.5	東湾ブイ	17.6	脇野沢ブイ	
浦田ブイ					

※奥内、浦田、野辺地、浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値



写真1 ユウレイボヤの浮遊幼生



写真2 オベリア類のクラゲ

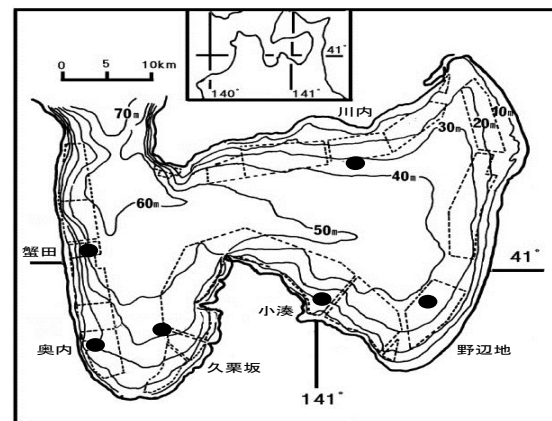


図3 ラーバ調査地点



①



②